

## おいしい O E C

## ニュースレター

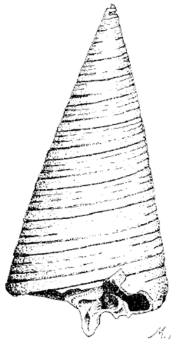
Vol.20

2013年6月発行

## 【コラム】マングローブのつぶやき ～その3～

## センニンガイは沖縄からなぜ消えた？

センニンガイは、インド洋や太平洋における熱帯地域のマングローブに生息するウミナ科の大きな巻貝です。今、石垣島や西表島のマングローブ湿地では、同科のキバウミナを多く見かけますが、生きたセンニンガイを見るこ



センニンガイ  
[*Telescopium  
telescopium* (Linne)]

とはありません。沖縄本島、そして宮古島や八重山諸島の海岸堆積物や貝塚では、センニンガイの貝殻をよく見かけます。いつ頃から、そして、なぜ、沖縄からセンニンガイが消えたのでしょうか。貝殻の多くがセンニンガイであったことから、



水で炊いたセンニンガイ

美味で採取が容易であることによって先人たちに食べ尽くされたのではと、私は考えました。そこで、16年前タイのマングローブでとった数個体を水で炊いて賞味しました。味は、サザエに近く美味いものでした。

琉球大学の黒田登美男先生は、センニンガイが八重山諸島で現生しているかを探る目的で、保存状態の極めてよい貝

殻から年代を測定しました。その結果は今から約313～473年前で、マングローブの泥底表面の死骸が現在生産されたものでないことが分かりました。年代の測定結果と生貝の採取が無いことから、同種は八重山諸島からすでに消滅したものと結論付けています。琉球列島におけるセンニンガイの分布の変遷は、気候変動による熱帯性海洋気候の前線が沖縄本島北部まで北上した後、その後の気温低下に伴いフィリッピン群島北部付近まで南下したとしています。琉球列島のセンニンガイは、食べ尽くされたのではなく、どうも気温の低下で消滅したようです。  
(会長 下地 邦輝)



## 国場川ワークショップ

これから開花時期(6月下旬～7月頃)を迎えるサガリバナ。夕暮になると垂れ下がった蕾が「ばあっ」と開き、甘い香りで周囲を包み込みます。ライトアップすると幻想的で美しく、朝を迎えると散ってしまうその儚さはとても神秘的です。

国場川WSでは、漫湖公園河岸に植栽されたそんなサガリバナの手入れを通して、国場川の水環境について考えてもらおうと取り組んでいます。現在、重点的に活動している河岸 900～1000m地点では、草刈やギンネムの根切り作業を行っています。また、スキヤセンダングサなどの繁茂を抑制するため、ツブキや長命草(ボタンボウフウ)などを植栽しています。

しかし、これまでの活動から、次の3つが課題に挙げられています。

- ①雑草の生長が早いいため、定着の良いカバープラントを検討する必要があります。
- ②参加者の多くが常連の会員さんであり、新規の方が少ない。
- ③参加者がより主体的に取り組めるような仕組みを用意できていないため、草刈作業やその実績に焦点が移ってしまう。

そこで、これらの課題を解決すべく今年度は参加者から様々なアイデアを頂戴し、サガリバナを中心とした水辺の環境づくりを考案していきます。参加者各々が意見を出し合い、イメージを膨らませることで公園へ訪れる楽しみが増えるので

はないかと考えます。

漫湖公園を訪れた際は、ぜひ、美しく咲いたサガリバナに目を向けていただき、そして、国場川の水環境についても目を向けてもらえればと思います。

(研究員 渡久山 長作)



草刈り作業の様子

## 第18回国場川水あしび

昨年の12月8日(土)、恒例の「水あしび」が、環境省 漫湖水鳥・湿地センター 広場にて開催されました。当日は176名の参加者があり、午前の清掃活動では、国場川沿いと豊見城高校側の清掃で、軽トラックとゴミ収集車2台分ものゴミを回収することが出来ました。

清掃後は、ステージで「劇団シンデレラ」によるミュージカル(漫湖の環境問題を題材にした公演)が行われ、お昼には南風原豚を使った豚汁が振る舞われました。午後からは、OECを含む3団体からの「自然体験型ゲーム」が行われ、OECは、①湿地センターの施設見学と木道観察、そして人気の②「サキシマスオウノキ」の種を使った「マグネット」と「ネックレ



こんなところに「貝」発見!!

ス」作りを実施しました。木道での水辺観察では、「オオハギ」や「ヨシ原」、「ナピアグラス」、そして漫湖に見られる「マングローブ」群が解説され、底生生物では「ヤエヤマシオマネキ」や「フタバカクガニ」、そして満潮時とあってマングローブの幹に上がっていた貝類の「オカミミガイ」や「ウミニナ」を多く観察できました。

後半は、お待ちかねの「サキシマスオウノキ」の種を使った工作体験。子供たちは夢中になって楽しんでおり、中にはいくつも作る子もい



小さな種に夢中でお絵かき

ました。「まどめ」では、水辺に生える貴重な植物について解説し、種の名前を覚えてもらいました。

子供たちには、国場川沿岸を歩いている時に、偶然、足元に見つけた種を見て今回の体験がふと蘇るような思い出になってくれたら、と願います。

(前研究員 上田 絵理奈)

## JICA 地域別研修「島嶼国 水環境の保全と管理」

島嶼国の水環境は、島の限られた環境の中で生活を営む人間活動により、簡単にかつ大きくバランスを失ってしまいます。この研修は、カリブ海・太平洋・インド洋諸国の水源地の環境管理部門に携わる政府職員を対象に、今年から設立されました。平成25年1月14日～3月8日の8週間、日本の水環境汚染の苦い経験、その後の水質汚濁対策、沖縄県の流域管理を軸に、環境管理政策、上下水道管理、事業場排水規制等の分野について学びました。

今回の研修員の多くは水道管理部門に所属する職員で「流域管理のアプローチによる水資源の確保と保全」は、比較的、新しい概念だったようです。彼らの流域で起こっている主な問題のうち、今回の研修を通して彼ら(の国や組織)自身で解決できそうな課題を次のように整理しました。

① 小規模産業活動による水質汚濁対策  
産業が小規模であるため、大規模事業場排水などによる顕著な水質汚染は、まだ発生していないようである。一方で、道路建設や農地開発などによる赤土等の流出、農業で使う化学肥料、豚舎・鶏舎などの小規模事業場排水などによる有機質汚濁が見られる。

## ② 家庭排水対策

下水道の敷設されていない地方部や集落では、貯留式浄化槽か地下浸透がほとんどで、各家庭からの生活排水(トイレ・台所・シャワーなど)の不完全な処理が大きな課題である。



宮古島の地下ダムと地下水保全対策

研修員は、沖縄研修中に、これらの課題解決に向けた方策や手法を学び、自国や所属組織へ提案書を作成しました。彼らの国で流域保全に係る関係者に、環境省・厚生労働省・森林省などが挙げられたため、帰国後、これらの関係省庁と連携して流域管理を進めていくことが期待されます。

この研修は、県内各地の皆様は快く科目を引き受けて頂き、専門的な解説と資料の提供、そして具体的なお助言を頂くことができました。改めて感謝申し上げます。今回の経験を活かし、引き続き、研修員の国にとっても沖縄県にとっても、ともに学びのある研修の場を提供していきたいと考えています。(副会長 吉田 透)



国場川流域における簡易水質調査



## JICA 地域別研修 「アフリカ地域 持続可能な観光開発(B)」

平成25年2月11日～22日の2週間、アフリカ11か国からの研修員15名を迎え、アフリカ地域持続可能な観光開発(自然及び文化観光開発)/ TICAD IV フォローアップ (B)研修を実施しました。この研修は一昨年度まで琉大が実施していたのですが、昨年度からはOECが実施しています。OECがアフリカ地域を対象とした研修を行うのは昨年度が初めてで、かつ、このコースは2週間と短く、研修員の数が15名と多かったので、研修員の顔と名前と国の情報を覚えられるかどうか心配しながら準備を進めました。

内容は、研修員の国や仕事の情報を発表する「Country & Jobレポート発表」を中心とした研修員同士の情報・意見交換と、日本や沖縄の観光行政に関わる方々からの講義、「地域振興と観光政策」、

「マーケティングとプロモーション」、「観光統計」に関する講義、そして後半の2日間では本島北部への視察旅行を行いました。視察旅行では、今帰仁城址で地方自治体による観光資源の保全と開発を学び、ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾートではリゾートホテルの環境配慮や自然環境保全活動について学び、琉球村では琉球の文化を観光資源とした商業施設を体験しました。その他にも、様々な観光地に立ち寄り、沖縄の海、ビーチ、水族館などを体験しました。研修の最後には、研修で学んだことをどのように自国の観



(上)琉球村 (右)今帰仁城址

光開発に活かしていくかのアイデアをまとめてもらい、発表を行いました。

研修員は一様に沖縄の観光開発を見て感心し、特に行政と企業の連携や、ホテルの環境配慮や自然環境保全活動、文化遺産の観光開発、地域の観光資源保護ルール作りからは学ぶところが多か



ったようです。アフリカ地域の観光開発については、これから

学ばなければならないところが多く、このコースではカリキュラム構成で課題が残りました。このコースは今年度も実施することになっているので、昨年度の経験を活かして、より良くしていきたいと思えます。(事務局次長 立田 亜由美)

## JICA 地域別研修 「持続可能な観光開発(カリコム諸国)」

「カリコム諸国」は、カリブ海の島国を中心に社会・文化・技術的発展のための協力等を行う共同体です。そのほとんどの国が沖縄程の小さな面積であり、主な観光形態は欧米諸国を対象とした大型のクルーズ船観光です。一度に大量の集客が出来る観光形態ですが、一方で食事や買い物などを船内で済ませてしまう観光客が多いため、旅行先である現地には収益が落ちず、地域と関わりを持たない『通り過ぎ観光』が課題となっています。

沖縄においても島嶼国特有の課題を抱えていることから、新たな滞在型観光メニューの取り入れや地域住民が主体のツアー提供など、「持続可能」な形で観光を推進していく手法を相互に学べる場として、当該研修が実施されました。7週間の研修は単に戦略や



(左)プール内で行う「健康増進プログラム」を体験。健康保持に焦点を当てながらも、プログラムとして提供出来ることを体感し、リゾート観光のメニューの一種として新たに加える可能性が広がりました。



タンカン農家を訪問し、枝の剪定や果実の収穫を体験。このプログラムは地域住民が主体となっており、体験事業者からどのようなプロセスを経て地域主体の仕組みを作ったのかを聞き、研修員の国の課題解決と照らし合わせることで出来る好事例となりました。



(上)研修員各々の国において、自慢出来る点・課題となっている点について整理・発表。自国について改めて見つめ直し、他研修員の意見も聞くことで、アクションプランの計画作成において必要な事項を再確認出来たようです。

技術だけでなく、高齢になっても元気に働く地域の方や、熱心で結束力の高い事業者の姿を目の当たりにしたことで、意識の面においても学ぶことが

多かったようです。研修員のこれからの活動に期待しつつ、今後も意義のある研修運営を継続していきたいと考えています。(研究員 余田 幸和美)

## 活動一覧

## ■平成25年1～6月 活動実績

## 【地域活動】 ※下記は全て自主事業

- ① 第24～26回国場川ワークショップ
- ② ニュースレター(Vol.20)発行
- ③ い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト(日本コカ・コーラ株)  
国場川流域の水環境改善に向けた啓蒙活動

## 【国際協力】 ※下記は全て受託事業

JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① アフリカ地域 持続可能な観光開発(B) 2週間 15名
- ② 持続可能な観光開発(カリコム諸国) 7週間 10名
- ③ 島嶼国 水環境の保全と管理 8週間 10名

## ■平成25年7～12月 活動予定

## 【地域活動】 ※②は寄付金事業、それ以外は自主事業

- ① 第27～29回国場川ワークショップ
- ② い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト(日本コカ・コーラ株)  
国場川流域の水環境改善に向けた啓蒙活動
- ③ サガリバナ鑑賞会(開催時期未定)
- ④ ニュースレター(Vol.21)発行
- ⑤ ホームページリニューアル(10月公開予定)

## 【国際協力】 ※下記は全て受託事業

JICA 沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① エコツーリズム研修(アジア大洋州)
- ② エコツーリズム研修(ベトナム)
- ③ アフリカ地域持続可能な観光開発(A)
- ④ 島嶼国水産改良普及員養成
- ⑤ エコツーリズム研修(中南米地域)

## お知らせ

## ■中期目標■

OECは、今年度より、国内チームと国際チームを編成して、それぞれ目標を立て活動することになりました。

## 【国内チーム】

地域における自然と環境の保全活動を通して、私たちの健康や生活の向上及び地域の文化や産業の振興に寄与することを目的とする。

----- 目標 -----

- ① 地域における自然と環境の保全のための実践活動
- ② 自然と環境の教育プログラム・教材開発
- ③ 受託事業や自主企画事業の実施

## 【国際チーム】

島嶼地域における資源の保全と持続的な活用に関して、環境や文化の保全、及び産業振興に携わる県内・海外の団体へ相互に学ぶ場を継続的に提供し、お互いの情報交換と技術向上につなげることを目的とする。

----- 目標 -----

- ① 研修・教育事業を通して持続的な活動を実施する
- ② 環境保全・地域開発事業、及び海外の団体・個人活動の受入を増やす
- ③ 上記活動で得た情報・技術を県民へ定期的に提供する
- ④ 上記活動を自助努力で持続させるために、収益を見込める自主事業を模索する

## ■ボランティア募集■

都市部に残された身近な「自然環境」について目を向けてもらうことを目的に、2ヶ月に1回、国場川河川敷においてサガリバナ及び水辺植物の手入れ活動を行っています。

参加者の皆さんとお手入れをしながら、水辺の自然や環境について理解を深めていきたいと思っております。

初めて参加される方でも一緒に楽しく作業できますので、皆様のご参加を是非お待ちしております。



## ■新職員から一言■

**岡部香代(総務チーム)**:裏方から、OECの水辺の活動をお手伝いさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

**渡久山長作(国内チーム)**:地域の自然の魅力を多くの方に伝えられるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

<http://www.npo-oec.com/>

## 自然と環境の保全是足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人の NPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107  
TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473  
e-mail :kokuba@npo-oec.com

